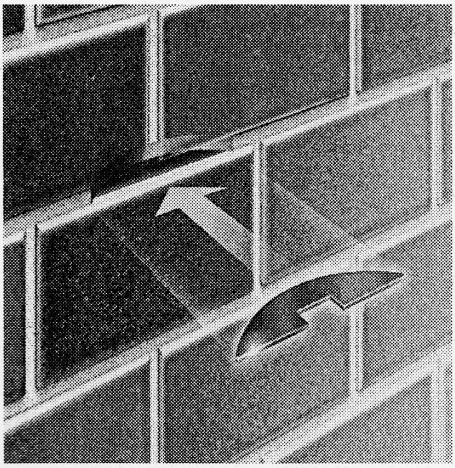
外壁はく落防止技術普及へ

タイルフィックス工業会 3月発足

東邦建材など 責任施工体制の確立推進

外壁タイルのはく落防止技術「タイルフィックス工法」の普及促進を目的に、「タイルフィックス工業会」が3月に発足する。工法を開発した東邦建材（東京都中央区、野口博司社長）をはじめ施工業者や学識経験者など29者で構成。技術講習会の開催を通じて施工管理士の育成と施工技術の向上を図るほか、生産物賠償責任保険への加入により施工に対する責任体制の確立を進め、同工法の普及拡大に取り組む。



タイルの目地にアンカーを打ち込む

同工法は、東邦建材と難波建築研究室（東京都板橋区、難波連太郎代表）が共同開発。08年3月に日本建築センターから技術審査証明を取得した。外壁タイルの目地部分にステンレス製の薄い特殊アンカー（タイルフィックス）を挿入し、アンカーとタイルをエポキシ樹脂で接着することでタイルを補強。1枚のアンカーで最大4枚のタイルの補強ができ、施工コストの低減が期待できる。アンカーは目地部分に打ち込むため、全体の美観を損なわない。これまでにマンションや大学など20件で採用実績がある。

東邦建材はこれまで関東を中心に数社の代理店を通じて販売するとともに、施工技術の講習会を行ってきた。需要増大に伴い、代理店や施工協力業者が全国数十社規模に拡大してきたため、施工業者全体で技術の向上や品質の確保を推進する必要があると判断。専門工事業者や施工代理店などに工業会参加を呼びかけたところ、28者が賛同した。

3月に設立総会を開き、工業会の活動を正式にスタートさせる。会員企業を対象にした技術講習会は、年2回程度開催。会員企業全体の施工技術の底上げを図るとともに、施工管理士の育成を進める。また、工業会として生産物賠償責任保険に加入。施工責任の明確化を図り、同工法の普及拡大を目指す。